

# 2024年度 第二部商経学科ゼミ募集要項

## 岩上ゼミ

<p><b>基本テーマ</b></p>	<p>『金融を通して地域社会の課題解決を考える』</p> <p>金融は経済活動の基盤であり、私たちの生活を豊かにするために不可欠な仕組みです。金融の大きな役割の一つは、新しい技術やサービスを持つ企業への投資や融資を通して、私たちの社会が抱えるさまざまな課題を解決することです。</p> <p>ゼミでは、企業分析や資産運用・投資について学ぶとともに、2年次は地域社会が抱えるさまざまな課題の中からテーマを決め、調査・分析しながら投資を活用して解決策を考えるプロジェクトを1年間かけて行います。</p>
<p><b>ゼミ運営方法</b></p>	<p><b>1年生後期(演習Ⅰ):企業分析、資産運用・投資を学ぶ</b>          企業分析の基礎を学びます。同時に、ゼミ生は担当教員の「ファイナンス論」を履修し、資産運用や投資についての実践的な知識を身に付けます。</p> <p><b>2年生(演習Ⅱ・卒業研究):チームでプロジェクト研究する</b>          3～5人でチームを組み、地域社会が抱える課題の中からチームごとにテーマを決め、調査・分析しながら課題解決の方法を考えていきます。調査では、フィールドワーク(学外の識者インタビューや現場見学など)も可能な範囲で行います。プロジェクトの成果をまとめ、「日経ストックリーグ」(日本経済新聞社が主催するチーム対抗の金融経済・投資学習コンテスト)に応募します。日経ストックリーグの応募レポートが卒業論文となります。</p> <p>今年3月卒業生は2チーム(各3名)に分かれ「物流2024問題と私達の未来」、「目指せ！ソーラータウン」というテーマでプロジェクトを行いました。</p>
<p><b>就職指導の方針</b></p>	<p>企業の人事部にいた経験をもとに、就職活動全般について相談に乗り、指導します。</p>
<p><b>卒論の要件</b></p>	<p>日経STOCKリーグのコンテスト提出レポートが卒業論文となります。従って、個人での卒業論文作成は必要ありません。</p>
<p><b>学生への要望</b></p>	<p>以下に該当する学生の応募を期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①地域が抱える課題に関心を持ち、主体的に学ぶ意欲をもつ人。</li> <li>②3～5人程度のチーム活動に、積極的に取り組むことができる人。</li> <li>③出席出来る人。(チーム活動が中心となるため)</li> <li>④大学生としての基本的なマナーを守れる人。</li> </ul>
<p><b>その他</b></p>	<p>希望する学生は、応募前に研究室(3号館4F-411)まで来てください。ゼミ活動の様子や日経ストックリーグの説明など、何でも質問に答えます。あらかじめメールで予約して貰うほうが確実。(iwakami@k-kentan.ac.jp)</p> <p>過去に担当教員の講義(「金融論」、「経済政策」)を履修している必要はありません。履修していないことがゼミでの学習や研究、成績評価に不利になることもありません。</p> <p>担当教員について:研究室HP(<a href="https://www.iwakami-lab.com">https://www.iwakami-lab.com</a>)を参照</p>

# 2024年度 第二部商経学科ゼミ募集要項

## 岡村(俊)ゼミ

<b>基本テーマ</b>	<p>ゼミのテーマは“情報化を中心としたシステムと人間の関わり合い”です。コンピュータやネットワークを中心としたモノ、社会、システムが人間とどのように関わっているのか明らかにし、快適かつ効率的な(職業)生活をしていこうということです。簡単に言うと、“ICT(情報通信技術)を活用することで、ラクして、いい仕事しよう”となります。</p> <p>ヒット商品や心理学に関して学ぶこともありますが、あくまでも(働くことを含めた)人間の生活からの視点で考えていきます。</p> <p>岡村(俊)はICTの専門家でもあります。コンピュータをバリバリやりたいならこのゼミは1つの選択肢となります。一方、「コンピュータは苦手、でもうまくなりたい」という学生が選択してもかまいません。どうして苦手なのか、コンピュータのどこが悪いのかを知ることができ、苦手意識を克服することができるかもしれません。ICTに興味がない人はこのゼミには向いていません。</p>
<b>ゼミ運営方法</b>	<p>基本的に“演習1”と“演習2”は“卒業研究”に向けての準備だと考えます。卒業研究は“勉強”ではなく“研究”なので、世の中に役に立つ新しい事実を自ら発見することが望まれます。また、学習と実益を兼ねて、学内あちこちのICT環境改善(パソコンや周辺機器の設定とか)など実践的な活動をやることもあります。</p> <p>ゼミの運営は基本的に学生主体が望ましいところです。学生の運営を教員がサポートする、というのが理想です。状況が許せば、施設見学など授業時間外での活動も、できる限り学生の希望に対応していきたいと考えてます。</p>
<b>就職指導の方針</b>	<p>就職先、進路、書類の書き方など学生の希望に応じて、できる限りのアドバイスはします。こちらからなにか強制することはありませんが、たまに活動状況に関して確認することはあります。指導や助言はしますが、進路選択・就職活動はあくまでも学生自らの責任において行うものであると考えています。</p>
<b>卒論の要件</b>	<p>ゼミのテーマから大きく外れなければ、内容、字数ともに自由です。動画などのデジタルデータでもかまいません。各自のテーマは演習を進める中で自分で決めていくこととなります。内容によっては複数名での執筆も可とします。内容に応じて、実地調査やアンケート調査、実験なども含めることもあります。</p>
<b>学生への要望</b>	<p>自分の考えを持つと同時に、その考えを表現する(相手に伝える)ことを望みます。基本的にゼミ生を“自立した人物”として扱います。“自立した人物”になれない、“自立した人物”になろうとしない学生は、最低限の学習しかできないと思ってください。</p>
<b>その他</b>	<p>何か質問があれば、okamura@biz-kpc.netにメールをするか、研究室(2号館1階)を訪ねてください。</p>

# 2024年度 第二部商経学科ゼミ募集要項

## 岡村(雄)ゼミ

<p><b>基本テーマ</b></p>	<p><b>「会計情報から企業と社会の問題を考える」</b>          会計学のゼミです。現時点での簿記の学習歴は問いませんが、会計情報を読み解くには複式簿記会計の基本原則を理解する必要があります。モノポリーなどのゲームを活用しながら複式簿記のしくみを学ぶことからスタートし、会計学の基本テキストを講読します。ここまでくれば企業はもとより、自治体等の会計情報も分析できるようになります。          ただし、会計情報の分析から得られることは限定的です。それを切り口として、私たちの社会で発生している諸問題(コロナウイルス感染拡大による企業活動への影響、企業活動による自然環境への影響等)について考える姿勢を大切にしたいと思います。          日商簿記検定等の合格を目指す学生はもとより、企業と社会の関係、社会における企業の役割について関心がある学生も歓迎します。</p>
<p><b>ゼミ運営方法</b></p>	<p>学生主体の運営が望ましいと思っています。本演習の大まかな計画は次の通りです。</p> <p>演習Ⅰ:複式簿記会計の実践的学習、会計学の基本テキストの講読          演習Ⅱ:会計情報分析の実践演習、卒業研究の計画          卒業研究:毎週、研究の進捗を報告しながら、論文にまとめる</p> <p>過去に実施した課外活動として下記のものがありますが、主体となるのは学生であり、参加は任意です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日商簿記検定対策の学習会</li> <li>・県大祭での模擬店経営</li> <li>・長期休暇を利用した合宿(垂水市、南九州市、本学)</li> <li>・調査旅行(東京都、京都府、福岡県、熊本県)</li> </ul>
<p><b>就職指導の方針</b></p>	<p>履歴書、エントリーシートの添削、小論文の対策等できるかぎりサポートします。</p>
<p><b>卒論の要件</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本テーマにしたがって論文を書いてもらいます</li> <li>・字数制限は設定しません</li> </ul>
<p><b>学生への要望</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・些細なことと思っても遠慮なく相談してください</li> <li>・気持ちの良い挨拶を心がけ、ルールやマナーを大切にしてください</li> <li>・財務会計論等の会計科目の受講を推奨します</li> </ul>
<p><b>その他</b></p>	<p>本演習に関心のある方は気軽に研究室を訪ねてください。</p>

# 2024年度 第二部商経学科ゼミ募集要項

## 瀬口ゼミ

<p><b>基本テーマ</b></p>	<p>私の講義科目である、マーケティング論や経営戦略論が基本テーマになります。マーケティング論でいえば、「売れる商品と売れない商品は何が違うのか」、「ブランド力を高めるためにはどうすれば良いのか」、「海外で行うマーケティングは、日本国内で行うマーケティングと何が違うのか」などについて。経営戦略論では、「企業と企業はどのように競争しているのか」、「ライバル会社に勝つためにはどのような手段があるのか」、「企業の行動は社会に対してどのような影響を与えるのか」などの疑問について考えていきます。</p> <p>これらの疑問は、すぐに答えが出るものではありません。1年生後期の【演習Ⅰ】で基本文献を読み、マーケティング論や経営戦略論の基本的思考と理論枠組みを学びます。そこで得られた知識を、2年生からの【演習Ⅱ】と【卒業研究】のなかで、具体的な商品や企業に応用させていきます。</p> <p>過去の卒業生の多くは、卒論のテーマとして、「ディズニーリゾート」、「ユニクロ」、「ポケモン」、「100円ショップ業界」、「K-POP」、「住宅産業」など、自分が興味を持っている具体的な商品、企業、産業を取り上げました。</p>
<p><b>ゼミ運営方法</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【演習1】では、各自で興味のある本を1冊選択し、そのなかの1～2章分を担当します。皆の興味が一致した場合は、ゼミで共通の本を指定します。</li> <li>・【演習2】では、卒業論文作成に向けて、テーマの設定や資料探しなどを行います。</li> <li>・【卒業研究】では、卒業論文の執筆がメインになります。各自のテーマに基づき、研究内容や進捗状況などを随時報告してもらいます。</li> </ul> <p>・希望に応じて、学内開放(学祭)への参加、食事会を含むゼミ内親睦会、工場見学などのゼミ旅行も考えています。</p> <p>ただし、こちらから無理に企画することはありません。皆さんからの希望を聞きながら、あくまでもゼミ生が主体となって計画・実行してもらいます。なお、ゼミの時間以外の活動の参加は任意であり、参加の有無によって成績に差を付けることはありません。</p>
<p><b>就職指導の方針</b></p>	<p>希望者に対して、企業研究、履歴書の書き方、面接対策などを可能な範囲でお手伝いします。ゼミ以外でも、希望があれば時間を取って、個別に相談に乗るつもりです。</p> <p>また、就職活動に必要なとされる能力(論理的に考える、自分の考えを持つ、自分の考えを相手に分かるように伝える、相手の話を聞く、質問の意図を読み取る、など)は、ゼミ活動のなかでも養成できると考えます。したがって、普段のゼミ活動においても、就職活動直前になって困らないように、前述した能力を身に付けられるよう指導するつもりです。</p>
<p><b>卒論の要件</b></p>	<p>卒論のテーマは、私が指導可能な範囲、すなわちマーケティング論・ブランド論、経営学、社会学の一部(文化社会学、消費社会論、メディア論等)などに限ります。</p> <p>文字数の指定はありません。心配しなくても、書くべきことを書いていけば、十分な文字数になります。</p> <p>テーマ設定や書き方などについては、ゼミのなかで丁寧に指導していきますので安心してください。ただし、瀬口ゼミでは、早期から卒論の準備を始め、作成においてもゼミ内で早めに締め切りを設定していますので注意してください。</p>
<p><b>学生への要望</b></p>	<p>現時点での知識は問いません。また、私の授業の受講経験や専攻の違いなども、ゼミ選抜には全く関係ありません。</p> <p>ただし、ゼミに入って一緒に学ぶ上で、以下の点を守ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①特別な理由が無い限り欠席をしないこと。欠席する際は必ず事前に連絡し、無断欠席をしないこと。</li> <li>②自分が担当すること(担当する章の報告など)には責任を持つこと。</li> <li>③「黙っていても何かしてくれる」のではなく、「自分たちでゼミをつくっていく」気持ちを持つこと。</li> </ol>
<p><b>その他</b></p>	<p>ゼミについて質問があれば、seguchi@k-kentan.ac.jpまで遠慮なくメールしてください。</p> <p>私と直接話して相談したい場合も、上記のメールアドレスにメールを送ってください。お互いの時間を調整して相談に乗りたいと思います。</p>

## 2024年度 第二部商経学科ゼミ募集要項

近間ゼミ	
基本テーマ	<p>テーマ: 人口減少下の労働問題を考える</p> <p>日本の生産年齢人口(15~64歳)は大幅な減少傾向になると見込まれています。そうした社会では、希少性が高まりゆく労働力をいかに有効に活用するかという方向性が模索されています。誰もが望ましい働き方を実現でき、働きがいと高めることができるためにも、既存の制度の見直しや労働環境の改善が求められています。</p> <p>一方で、今日の働き方には過労死や長時間労働、非正規労働者の不安定雇用や低賃金という問題があり、上記の目的の達成には困難が生じています。ゼミでは日本の働き方の特徴、ライフスタイル(結婚、子育て、介護など)との関係性について考えていきたいと思ひます。</p>
ゼミ運営方法	<p>大まかには以下のような流れで進めていきたいと思ひます。</p> <p>演習Ⅰ:ゼミのテーマに関わるテキストを1冊選択し、輪読を行います。</p> <p>演習Ⅱ:卒論の執筆に向けて、各自が関心を持っているテーマに関係する論文を取り上げ、その内容を報告してもらいます。</p> <p>卒業研究:卒論の目次案、概要を報告してもらい、実際に卒論を作成してもらいます。各々の進捗状況に合わせて、適宜アドバイスを行います。</p> <p>ゼミ運営の具体的な方法については、ゼミ生と相談しながら決めていきたいと思ひます。あくまで学生が主体となってゼミが運営されることが望ましいので、参加しやすいやり方についても何かあれば提案してください。</p> <p>また、ゼミ生の希望があれば学内開放での模擬店経営やゼミ旅行、ゼミ合宿などの課外活動を企画したいと思ひます。なお、ゼミの時間以外の活動の参加は任意であり、参加の有無によって成績に差をつけることはありません。</p>
就職指導の方針	<p>希望者には、履歴書の作成や面接練習などを可能な範囲でサポートしていきたいと思ひます。就職活動はゼミのテーマとも密接に関わることでありますので、心配事なども遠慮せず相談してください。</p>
卒論の要件	<p>社会問題を扱うテーマであれば、ゼミで扱うテーマでなくても構いません。テーマについては、ゼミのなかで相談しながら決めていきたいと思ひます。文字数は目安として10,000~12,000字程度とします。</p>
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マナーを守ってお互いが気持ちよくゼミに参加できるように心掛けていきましょう。</li> <li>・欠席する際は必ず事前に連絡をし、無断欠席しないこと。</li> <li>・ゼミでは活発な議論ができることを望みます。ただし、どんな発言に対しても相手を誹謗・中傷するようなことはしないことを守ってください。</li> </ul>
その他	<p>前期は国内留学中のため、研究室におりません。</p> <p>ゼミについて興味がある方は、zoom等での説明会を実施しますので、メール(chikama@k-kentan.ac.jp)にてアポを取っていただければと思ひます。もちろん、メールのみでの質問もかまいません。</p>

# 2024年度 第二部商経学科ゼミ募集要項

## 藤野ゼミ

<p><b>基本テーマ</b></p>	<p>ゼミでは、フィールドワーク等を通して「伝統産業」について考えます</p> <p>鹿児島県には薩摩焼や川辺仏壇など、数多くの伝統産業があります (<a href="https://www.pref.kagoshima.jp/kids/sangyou/dentoukougei.html">https://www.pref.kagoshima.jp/kids/sangyou/dentoukougei.html</a>)。伝統産業というと、なんだか「古臭い」といった印象を持つかもしれませんが、何十年、何百年かけて蓄積された技術を進化させてイノベーションを創出したり、他の産業との相乗効果により新たな価値を生み出している企業が数多くあります。</p> <p>ゼミでは「伝統産業」をテーマにゼミ活動を行います。書籍の知識だけではなく、実際に学外でフィールドワーク等しながら、伝統産業の未来について考察します。具体的な内容については「ゼミ運営方法」をご参照ください。</p>
<p><b>ゼミ運営方法</b></p>	<p>基本的な運営方法については、受講者と相談して決めていきます。今のところ、以下のように考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習1 県内の伝統産業について、書籍等で勉強します。また、自治体の担当部署の方にゲストスピーカーとしてお越しいただき、お話を聞くことも考えています(うまくいけば、演習2の内容に早めに取り掛かります)。</li> <li>・演習2 演習1での知識をもとに、企業等へのヒアリングのほか、場合によっては伝統産業についての街頭調査を実施します。これと並行して、論文執筆の準備(テーマを決めて、資料等を収集)をします。</li> <li>・卒業研究 演習2の内容の続きにとりくみながら、論文を執筆します。</li> </ul>
<p><b>就職指導の方針</b></p>	<p>ゼミの内容そのものが企業研究のトレーニングにもなります。また、学外での活動も想定していますので、それに関わることにより、ガクチカ(学生時代一番力を入れたこと)やコミュニケーション能力等、就職に必要な力が自然に身に付くように工夫しようと考えています。エントリーシートの添削、面接対策、小論文対策等就職対策全般についてもお手伝いします。</p>
<p><b>卒論の要件</b></p>	<p>ゼミでの学習に基づいて、各自でテーマを設定してもらいます。字数については制限を設けません。</p>
<p><b>学生への要望</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街づくり、地域活動、ボランティアに積極的な学生の参加を歓迎します。</li> <li>・無断欠席、無断遅刻はやめましょう。</li> <li>・ゼミ活動を通して、みんなで協力し、切磋琢磨しながら成長して欲しいと願っています。</li> <li>・ヒアリングが入りますので、ヒアリング先の都合によっては、時間帯が昼間になってしまう可能性があります(その場合、受講生とヒアリング先との間で時間を調整していただくこととなります)。</li> </ul>
<p><b>その他</b></p>	<p>初めてゼミを担当するので、上記の内容が皆さんにちゃんと伝わっているのかなど、いろいろと心配です。なので、もし私のゼミを検討されているのであれば、あとで「藤野ゼミに入るんじゃなかったー！」なんてことにならないように、事前の研究室訪問を強くお勧めします。研究室に在室しているときは基本的にいつでも対応します(事前にメールで予約していただいてもかまいません)。</p> <p>また、なにか質問がある場合は、直接研究室にお越しいただくか、メール(<a href="mailto:fujino@k-kenta.ac.jp">fujino@k-kenta.ac.jp</a>)までお願いします。</p> <p>本来の専門は法学なので、もしご要望があれば関係資格(宅建士等)の指導もします(藤野、宅建士、行政書士、2級FP試験は合格しています)。</p>

# 2024年度 第二部商経学科ゼミ募集要項

## 船津ゼミ

<p><b>基本テーマ</b></p>	<p>コミュニケーション能力、議論する力、経済学に関する体系的知識、経済・社会に対する洞察力、プレゼン能力の習得・向上を目指します。これらは、一般企業、公務員等を目指した就職活動全般や進学に有意義であるだけでなく、卒業後、社会人として様々な活動をする上での地力になると考えます。</p>
<p><b>ゼミ運営方法</b></p>	<p>基本テーマで書いたことを実現するために、本を読めるようになることと議論できるようになることを特に重視して運営しますが、具体的な方法は初回にゼミ生全員で話し合っただけだと思いません。そして、一年半単位ではなく、半期ごとに成果が実感できるゼミを目指します。</p> <p>選択肢としては、1つには、話し合っただけの共通の本を読みつつ、報告者が担当部分を報告し、みんなで議論する、2つめに、ゼミ生がそれぞれ自分で本を選び(難しすぎたり、簡単すぎたりしないよう、僕が相談に乗ります)、その本の一部(1章が目安)について報告者が報告し、みんなで議論する、3つめに、第一部のゼミと同じように、伊藤元重『マクロ経済学第2版』日本評論社か中谷蔵他『入門マクロ経済学 第6版』日本評論社をテキストに輪読を行ってマクロ経済学の基礎を身につけるといったことが挙げられます。ここ2期(2022年3月と24年3月卒業)は、前者は公務員志望者が多かったこと(3名が地方公務員になりました)、後者は社会人2名と進学希望者2名(1名は途中で進路変更、1名は他県の国立大学に進学)の意向もあって、3つめが選ばれました。</p> <p>マクロ経済学を候補にしている理由は、公務員志望者、進学希望者、金融関連等への就職希望者だけでなく、どのような道に進んでも有用なことに加えて、商経学科には「経済学」の後、マクロ経済学についてさらに学べる科目が開設されておらず、マクロ経済学についてさらに学びたいという要望をしばしば聞くからです。</p> <p>あと、1~3のどれになっても、議論する力や経済・社会に対する洞察力を向上させるために定期的にディベートか新聞や海外通信社の記事等を元にした議論を行うことも提案する予定です。</p>
<p><b>就職指導の方針</b></p>	<p>ゼミ生の要望に応える形で指導します。こちらから、あれをしなさい、これをしなさいといった指示を出すことはありません。</p> <p>具体的には、履歴書を書く時に相談に乗ったり、添削したり、面接の練習相手をしてアドバイスしたり、進学志望のゼミ生には、志望大学に合った勉強方法についてアドバイスしたり、勉強会をしたりといったことをしてきました。</p> <p>二部ゼミで2年次に地方公務員に採用され、公務員として勤務しながら学び、卒業した先輩が、面接や履歴書対策の資料を残してくれていますので、それも活用してもらおうと思っています。</p>
<p><b>卒論の要件</b></p>	<p>分量としては、400字×20枚以上が一応の目安です。テーマは、経済・社会に関するものであれば基本的に自由です。</p> <p>過去の卒論のテーマには、鹿児島県財政、鹿児島県内の市町村合併(薩摩川内市、南九州市等)、地域経済の活性化(出水市の企業誘致、「さんふらわあ」の影響、天文館の活性化等)、雇用・労働(アルバイト雇用、派遣労働、高齢者雇用、外国人労働者、女性の就業率、奄美市の雇用、中小企業のジョブ型雇用導入)、観光(鹿児島県と熊本県や福岡県との比較、霧島等のジオパークの比較等)、地域防災(鹿児島市と宮崎市の比較、建設発生土問題)、テレビCMと企業の売上の関係性、企業の経営分析(路線バス、ブランド戦略、コンビニ間の比較、ユニクロの分析、楽天とアマゾンの比較、東宝と東映の比較)、スポーツ(日本のプロ野球球団、野球の独立リーグ、日本女子サッカーの分析)、NPOと行政の協働(ロンドンオリンピックから見る東京オリンピック、太陽光発電の現状と課題、ブロック経済政策の歴史等)がありました。</p> <p>ゼミ全体やゼミの中での数人のグループで共通のテーマに取り組むことも考えられます(過去には2人で協力してアンケートを取って保育士・幼稚園教諭の人材確保と処遇改善に関する連名の卒論を書いた先輩もいます)。</p>
<p><b>学生への要望</b></p>	<p>現在の知識の量、勉強や読書の得意・不得意といったことは一切問いません。</p> <p>ゼミの議論では積極的に発言してもらいたいと思いますが、良いこと、感心してもらえるようなことを言おうとする必要は全くありません。しゃべることが得意でなくても構いませんから、自分が感じたこと、考えたことを素直に、出来るだけ分かりやすく伝えようとしてもらえば十分ですし、そうしやすいようにゼミを運営するつもりです。</p> <p>毎回のゼミでのそうした積み重ねが、コミュニケーション能力や議論する力、プレゼン能力の向上に必ずつながっていきます。</p>
<p><b>その他</b></p>	<p>僕に実際に会ったり、話してゼミ選択の判断材料にしたいという方は遠慮なく声をかけてください。他の仕事等と重なる可能性もありますので、前日の午後9時までにメールでアポイントメントをとってもらおうと確実だと思います。数人一緒でも大丈夫です。来室時には軽くノックして、「〇〇(自分の名前)です」と呼びかけてもらえると助かります。</p>